

2026年度 聖心女子大学事業計画

私たちを取り巻く社会には少子化に加え、人工知能（AI）やICTに代表される産業の技術革新などの波が急速に押し寄せ、経済情勢が大きく変化する中で、将来像を見据えることが、ますます難しくなっています。こうした予測困難な時代において、次世代を担う若い人々に必要とされるのは、一人一人をかけがえのない存在として尊重しあう人間観、そして、幅広い知識や柔軟な思考力をもって世の中の課題を洞察し、社会に深く働きかけてゆく人間の知性といえます。

聖心女子大学では、こうした「真の教養人」を育てる「リベラル・アーツ教育」を1948年の創立以来、変わることなく貫いてきました。初代学長、マザー・ブリットの「自立した人でありなさい、知的な人でありなさい、協力する人でありなさい。あなた方は社会のどんな場所にあっても、その場に愛の灯（ともしび）を掲げる人になりなさい」という言葉に集約されるように、自らの視点や価値観を確立し、豊かな知性を備え、それをもって人々と協調し社会に貢献できる人物の育成を目指しています。

聖心女子大学は2025年度から2029年度の5か年間で達成すべきA～Dの4つの基盤的目標を設定し、時代の変化に適合した教育・研究の確固たる基盤を整えることを基本的なテーマとしています。

特に、2026年度においては、副専攻制度、1年次の基礎課程演習、および4年次の卒業論文のあり方を改めて検討し、多様な経験に基づく学びの一層の促進を目指します。加えて、AI・データサイエンス教育の充実や社会調査士資格の拡充を検討し文理横断プログラムを推進します。また、学生のニーズの多様化に対応するため、学生支援体制の強化を進め、キャリアサポートの充実も図っていきます。さらに、大学の研究力を高めるため、教職員のニーズを把握しつつ、研究に適した学内環境や研究支援体制の改善を行います。さらに学生募集も重要な課題であり、これまでの関連データを分析しながら入試制度を改革し、広報に関しても新たな体制を構築して入学者の確保の安定化を目指します。

大学の教職員をはじめ、その他のステークホルダー間でこの目標と計画を共有し、各年の事業計画に盛り込みながら着実に実現していきます。

A 学修者本位の教育の充実

中期計画	事業計画	行動計画	達成指標
1. 学生の多様な経験に基づく学びの促進	(1) 学部カリキュラムの充実	副専攻制度の再検討を行う	次期副専攻制度の策定
	(2) 初年次教育・4年次教育の充実	基礎課程演習の質的確保の検討を行う	次期基礎課程演習の策定
		卒業論文指導体制の検討を行う	次期卒業論文指導体制の整備
	(3) 大学院新カリキュラムの検討・策定	カリキュラム完全半期化の開始準備を進める	カリキュラム完全半期化案の策定
2. 文理横断型プログラムの推進	(1) 文理横断型プログラムの推進	AI・データサイエンスプログラムの充実を進める	文科省プログラム（数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度応用基礎レベル）の充実
		社会調査士プログラム全学展開の検討を行う	社会調査士プログラム全学展開案の策定
3. 大学院教育・研究の推進	(1) 大学院教育・研究の推進	院生の研究活動ニーズの把握、適切な支援制度の充実を進める	支援制度の改訂
4. 学生支援体制の強化	(1) 多層的な学生サポート体制の運用	修学支援体制試行の点検・評価を行う	休学者・退学者割合の減少
		学修成果の可視化体制の点検・評価を行う	教員・事務部署間での学生の教学データの共有ガイドライン策定
		学寮運営体制の検討を進める	入寮者数の向上
	(2) 新キャリアプログラムの策定・試行	新卒採用早期化に対応するキャリア支援策の策定を行う	実就職率の向上
		学生ニーズの把握、適切な支援制度の充実を進める	就職状況把握率の向上
5. 大学運営への学生参加のあり方の検討	(1) 大学運営への学生参加のあり方の検討	大学運営への学生参加体制の検討を行う	学生・教職員協働会議の設置

B 研究・社会連携の推進

中期計画	事業計画	行動計画	達成指標
1. 研究力の強化	(1) 研究力の強化	研究支援体制の実態把握と支援体制の方針策定の検討を行う	年間研究計画・研究エフォート率の把握
2. 産官学域・大学連携の推進	(1) 社会（産官学域）連携推進・管理体制の検討	社会（産官学域）連携体制の実態把握と方針策定する	社会連携のあり方に関する基本方針の策定
		社会連携体制の整備を進める	各研究所、社会連携課、マグダレナ・ソフィアセンターの連携体制の明確化

C アドミッション・ポリシーに合致した学生の受け入れ

中期計画	事業計画	行動計画	達成指標
------	------	------	------

1. 入学者選抜の検証と改善	(1) 入試改革の進行	入試関連データ、実施経験に基づく改善策の実施を進める	入学定員充足率の維持
2. 入試・大学広報の強化	(1) ブランディング活動の実施	学生募集体制の再構築を行う	新広報体制の構築
3. 高大連携の強化	(1) 姉妹校・指定校との連携活動の検証	高校への聞き取り調査に基づく連携促進活動の点検・評価を行う	総合型・推薦型選抜入学者割合の維持
	(2) 協定校の拡大	新たな協定締結の推進を進める	新規協定の締結
4. 大学院入学者の確保	(1) 大学院入学者の確保	早期修了学生制度利用状況の確認および推進方法の検討を行う	入学定員充足率の維持

D 組織・財政基盤の整備

中期計画	事業計画	行動計画	達成指標
1. 内部質保証体制の確立	(1) 全学評価委員会の実質化	自己点検・評価の実施体制の確立を進める	全学評価委員会規程の見直し
2. 組織の活性化	(1) 事務組織の整備・業務効率化の実行	事務部署の業務運営の見直しを進める	時間外勤務の縮減
		事務業務効率化の検討を行う	時間外勤務の縮減
3. DXの推進	(1) 事務業務DX化の実行	学内の事務業務DX化の推進を行う	複合機・プリンター費用削減
4. 大学運営のための財政基盤の安定化	(1) 収入増・支出削減方策の見直し・実行	業務委託契約内容等の見直しを進める	管理経費削減
5. 施設・設備の整備・充実	(1) 学内施設の有効活用 of 検討	施設の有効活用 of 検討を行う	教室稼働率の向上
		キャンパスマスタープランの見直し・検討を進める	キャンパスマスタープランの2029年度の策定